

議 事 録

会議の名称		第 2 回 宗像地区事務組合水道事業運営審議会
開催日時		令和 4 年 10 月 25 日（火）午後 2 時 00 分～午後 3 時 10 分
開催場所		宗像地区事務組合 3 階大会議室
出席者	組合長等	
	委 員	吉田 益美 会長、矢野 章 副会長、小樋 和成 委員、 権現 昭二 委員、永尾 睦 委員、平田 悦子 委員、 漆谷 慎一 委員、清水 由美子 委員 (以上 8 人) ◎欠席 なし
	組合（職員）	堤 事務局長、豊福 経営施設課長、 青谷 主幹兼施設係長、久保寺 施設係長
	組合（庶務）	山中 係長、小松 企画主査、山本 主査
会	議 題	1. 会長あいさつ 2. 議事録署名委員の選任 3. 確認事項 第 1 回議事録の確認 4. 審議事項 水道ビジョン（令和 5 年度版について） 5. 開催日程調整
議	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	

	資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道事業運営審議会（第 1 回）議事録（資料 1） ・ 水道事業運営審議会名簿（資料 2） ・ 審議資料（資料 3）
	会議録の作成方針	I C レコーダを使用した要点記録
	議事録署名委員	漆谷委員、小樋委員
	その他の必要事項	
	審議の内容	別紙のとおり
	傍聴者の数	0 名

審議会（第2回）議事録

日時：令和4年10月25日（火）14：00～

会場：宗像地区事務組合 3F 大会議室

開会前

- ・事務局による配布資料の確認

開会

- ・会長あいさつ

議事録署名委員の選任

- ・会長が議事録署名委員2人を指名（漆谷委員、小樋委員）

確認事項：第1回議事録の確認

- ・第1回審議会の議事録を確認

審議事項：水道ビジョン（令和5年度改訂版）について

会長：

審議事項に入ります。水道ビジョンの改定案について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

まず初めに、資料3 水道ビジョンの目次をご覧ください。第2章、事業概要の、2.3、水需要実績および将来見通し、第3章、現況と課題の3.1、水運用、3.2、水質および検査体制、それと、次ページの第8章、財政の見通しにつきましては、次回第3回の審議事項とさせていただきます。今回の審議会では、その他の項目について、前期5年の実績を踏まえ、内容が変更となった箇所についてご審議いただきます。それでは、資料に沿って説明いたします。

（事務局から変更箇所について説明をおこなう。）

会長：

（進行について確認。審議は章ごとに進めるか全般とするか）

それでは、全般で質疑のある方はどうぞ。何ページということを言ってください。

委員：

17ページと、各所にありますが、中央値というのがありますよね。この意味が分からないので教えてまずは教えていただきたいのですが。

事務局：

福岡県の中央値であれば福岡県の、自治体をずっと横に並べた真ん中が、中央値となります。皆

様がよくやるのは平均値だと思います。平均値は例えば10個数字があったら10個足して合計を10で割る。これが平均値になります。一方で今回使っている中央値でいきますと、福岡県下の事業体を全部、高い順から低い順に並べたときの1番真ん中の事業体という形になります。奇数であれば真ん中になります。偶数であれば真ん中が2つ出てくるので、その平均という形になります。

委員：

中央値って、3つありますよね。全国と福岡県と類似の3つ合わせての中央値ということですか。

事務局：

全国は全国の実業体を全部並べて求めたものになります。福岡県は福岡県内の実業体、類似は、1番下にありますがけれども、給水人口が10万人以上15万人以下未満の実業体の真ん中という表現になります。

委員：

見る側にしたらちょっと分かりにくい。例えばなぜ3つあるのかというところをお聞きしたいのですが。

事務局：

水道事業を運営する上で、やはり県内だけではきちんと運営出来ているかという判断がしづらいということがあります。数値的には、全国の中央値、県内、全国の中の同じぐらいの都市の中央値を見ながら運営していかないと、偏りが出てお考えしておりますので、全国、福岡県、あとは、規模の同じ程度の中央値を参考に表記しているということです。

委員：

素人が見たときに、3つあるので非常に分かりにくい。例えば全国よりはいいが、福岡県で悪い、でも類似では同じだとすると、どこと照らし合わせて、評価したらいいのかというのが、よく分からない。多面的に評価することは非常に大事なことだと思いますが、判断がちょっとつきにくいな、と感じましたがどうですか。

事務局：

基本的には全国平均かなと思っています。ただし、県ごとに水源などが異なり大きな差が出る場合もあるので、福岡県や類似団体も併記して、目標としては全国平均があれば良いと判断しています。

委員：

僕も、全国を一つの基準にするというのが筋かなと思っています。ただ特殊事情などもあると思うので、そのときは、例えば類似を補助的に上げて、この場合は、こういう理由から、類似団体と評価しますというふうにしないとよく分からなくなってくるのではないかと思います。おっしゃるように、全国が基本いいのではと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：

全国だけを見るというのは、やはり難しいところがあると考えております。ここの表記をどうするかということですが、地理的状況もありますので、事務組合としては、この全国値、福岡県、あとは類似団体、これを見ながら、事業運営がうまくいっているのかどうかを判断したいと考えております。

会長：

今までもそのような表記の仕方をされてきましたね。そういうことだそうですが、委員どうですか。

委員：

このビジョンは市民の方にもお知らせするのですか。例えば、費用に関して言えば評価では全部下向きの黒三角ですけど、全国と比較するといいいけど、類似では悪い、福岡県でも悪いと。最終的な評価を下した根拠がないと、数字だけ見ると、比較する対象によってよかったり悪かったりするわけでしょう。それを良いという評価をするのが、どうも分からない。

事務局：

評価の、1番右側の評価の白三角と、下向きの黒三角、なんですけども、これはうちの事業自体が良いか悪いという評価ではありません。これは、白三角は上がれば上がるほどいいですよ、黒三角は下がれば下がるほどいいですよという評価になっております。

会長：

評価の白三角と黒三角は、事務組合の状況の評価しているということではない、ということではよろしいでしょうか。この点について、このあたりでよろしいでしょうか。あまり時間を取ると、ほかのところが出来ませんので。

委員：

はい。では最後に、例えば、○、△、◎とかいうふうに、客観的に、もう少し分かりやすい評価で、安定性の最後に総合の評価をされていますよね。それと同じように例えば収益性は○なのか、△なのか×なのかとかいう、何か総合的な評価があったほうがいいかなと思います。すみません。長くなり申し訳ないです。

事務局：

これは、P I 指標といいまして、全国的に統一されたような表記になっておりますのでこの表記を変えるっていうのはちょっと今のところ出来ませんので、すみません。

委員：

お考えをお聞きしたいのですが、第5章の、市民の意向調査、改訂版の36ページです。この、意向調査の位置づけを聞きたい。前回5年前に意向調査をしましたということで、ビジョンが5年前出来たと。で、急激な環境変化があるので、今回この改訂版をつくりますよというときに、意向調査だけ5年前のビジョンからぽんと持ってきている、ここはこれで良いのでしょうかという素朴な疑問です。

事務局：

今回は、前期5年間の人口や事業状況などの変化を反映した見直しを行いたいと考えております。アンケートに関しては、また5年後に、新水道ビジョンを策定しますので、そのときには実施をしたいと考えております。

委員：

お考え分かりましたけども、これ全体を読んだときに、ほとんどの数値が令和に置き換わっている中で、ここだけ平成というのが出てくると、何か市民の意向調査が軽く見られているような感じがする。もしそういうことであるならば、市民の意向調査を次回改定のときにやるので、今回は、5年前の市民意向調査を再掲しましたというような一文があると、まだいいのかなという気がいたします。

会長：

今、委員が言われたような形が私もいいかなと思いますが、いかがですか。

事務局：

はい、貴重なご意見をいただきましたので、市民の意向調査のところには、市民の方に分かるように、表記をしたいと思います。その表記に関しましてはまた、3回目のときに報告さし上

げたいと思います。

会長：

よろしくお願いします。

委員：

小さなことですが、このビジョンの中で、BCPについては括弧書きで業務継続計画と書いてあるのですが、例えば1ページの、最初の文章の後ろのほうでは、PPPという言葉が出てきて、これは注釈がつくようになっているので後で注釈がつくと思いますが、できればPPP（公民連携）というふうに書いていただいたほうが、ずっと読めていいと思う。これ当初ビジョンからそうなのなのですが、今回改めて見ますと、括弧書きがあったほうが親切かな、という感じがしますけどいかがでしょう。

会長：

表記の仕方は、こちらのほうはあって他方ではないとかいうことがないよう、同じように統一されたほうが良いと思います。いかがですか。

事務局：

また全体を見直しまして、ご意見を生かす形で、第3回に反映したものをお見せしたいと思います。

委員：

はい今おっしゃったこと、私も同じことを考えていました。資料を初めて読みまして、よく出来ていると思いました。でも素人で見たときに、さっきおっしゃいましたPPPもどこか注釈があるか探したのですが、注釈がないのと、23ページにも今の若い人はみんな分かるのでしょうが、AIやDXなどの技術革新にと書いてあります。こういうのもやっぱり注釈があると、すごく分かりやすいのではないかと思います。なかったのも、その辺ちょっと考えていただいたらよろしいかなと思います。

事務局：

すみません、今回の資料には用語集はつけておりません。最終的に、全体が出来上がると用語集の中に、その辺りの用語や解説を掲載する形になりますけども、表記できる範囲で、本文のほうに表記していきたいと考えております。

委員：

もう一つ、14ページ経営状況のところ、千円単位で金額が記載されていますが、これも素人が読むときにわかりづらい。そういうものなのかもしれませんが、すごく難しく感じました。

会長：

前回もそう書いてありましたが、確かにそうですね。

事務局：

行政的な表記になっておりますので、一般の方から読みやすいように書換えたいと思います。ありがとうございます。

会長：

はい、ありがとうございます。

委員：

本文と少し外れると思いますが、当初版の1ページ開いたときに、お客様に信頼される水道を次の世代へという、ページがあるのですが、改訂版ではこれが抜けている。当初はたしか、事務組合として始まったのがまだ10年足らずというところだったので、事務組合の経緯とか、北

九州に委託したことなどを、アンケートの結果で60%以上の人が知らなかった。非常に認知度が低いということで、この文面を最初に載せようというようなことになったと記憶しています。今回の改定で、これを外すかどうかというところですが、そこをちょっとお聞きしたい。

事務局：

はい、この、前回ビジョンの1番最初のページの記載については、今回の改定版で、このページをなくそうというつもりは全くございません。このビジョンを見直していく中で、1番まとめのような形になりますので、完成に合わせてお示したいと考えています。ですから、現在載っていないということです。

委員：

はい、分かりました。

委員：

34 ページ経営目標の基幹管路の耐震適合率について、平成29年度が48.8%、令和4年度は予定としては50%、それ令和9年度が60%以上ということになっておりましたけれども、実際令和4年度は、現状38.7%ということで、適合率が下がっている。この現象としてはどういうことなのか。工事は実施しているはずだが、そのこのところをちょっとお聞きしたい。

事務局：

はい。数字が下がっている要因としましては、まず水道のマッピングシステムを導入したことで、今まで拾い切れてなかったものなど、水道管の情報がきれいに反映されたというところが一つございます。もう一つ、組合の中で、基幹管路という扱いをしているものが、29年度に作成した段階では、150ミリの管は、配水支管という位置づけで、基幹管路ではないという取扱いをしておりました。しかしながら、施設の情報を検討していく中で、150ミリからは、配水本管、基幹管路とする取扱いに変更としましたので、数値が下がっている状況になっております。

委員：

原因としては分かりましたが、そうすると、これから5年間で基幹管路を、38.7%から60%に引上げなければならない。かなり大きな仕事量になると思います。それで、費用的な面でどうかということと、その仕事量を、これは北九州市に工事を委託していますが、仕事ははき切れるのか、というようなところが私としては分からないところがありますので、そのこのところをお聞きしたいと思います。

事務局：

今回、150ミリ以上の管を基幹管路としたことで数値は下がっております。あくまでも9年度の60%以上というのは、目標値と考えておりますので、できるだけこれに近づくように、努力はしたいと考えております。今のところ施設の更新を毎年度約12キロ実施しておりますので、できるだけ近づけたいと考えております。今回この9年度の目標値を、扱うかどうか検討したのですが、考え方は変わったとはいえ、前回の水道ビジョンでうたっておりますので、そこは目標値としてとらえて、このままにしておきたいと考えております。

委員：

分かりました。

委員：

その関連で、45 ページ、お願いします。45 ページの中央のところ、耐震化の推進というところの3段落目、下から2段目のところで、管路については更新に合わせて、耐震化を進めており、基幹管路の約半分が耐震適合性のある管路となっています、と明記してあります。その50%と、

今さっきの 34 ページの、現状の 38.7%というのは整合性がとれてないのかなと思います。そのところを、どういうふうに書かれるか。

事務局：

ご指摘ありがとうございます。確かにこの部分は整合性がとれておりませんので、文言を変えたいと考えます。

会長：

はい。お願いします。

委員：

改訂版の 51 ページで、旧のほうでは 50 ページですが、スケジュールの分で、旧の分が、持続可能な水道事業の実現が平成 31 年度から始まっているものが、下から 4 番目のアセットマネジメントと、3 番目の I T の分。改訂版では平成 30 年度から始まっている。ここの修正がもしかしたら必要なのかなと思う。

事務局：

はい。こちらは確かに前回と比較して、1 年前倒しで矢印を引いてしまっていますので、これは誤りになります。次回までに直したいと思います。ありがとうございました。

委員：

27 ページの、無効率の表ですけれども、令和 2 年だけぽんと突出して、令和 3 年になったら戻っているということは、もう修理が完了して漏水等は治っているという理解でよろしいでしょうか。また今後も令和 2 年度のように突出することはないと思っていてよろしいのでしょうか。

事務局：

はい、27 ページの令和 2 年の無効水量が突出していることで、考えられる要因としましては、前年度に配水地のブロックを大幅に変更した関係で、水圧の変動等が起こったことなどが考えられますが、確かに漏水が多く発生し有収率が悪かった状況がございます。この対策としまして、令和 2 年度に、漏水調査等を大規模に実施しまして、発見した漏水箇所を修繕しました。令和 3 年度は、その効果があらわれて改善したと考えております。

委員：

全体的に見て、今後も、整備計画、施設の整備計画で強靱な水道にしていくということを随所にうたっております。管路の更新だったり、耐震化だったりがどんどん進んでいくと思いますが、今物価もすごく高騰して、経費もかかってくると思います。今後の事業費がどのくらいになっているのかなというのを、始まる前に少しお聞きしたりしましたが、この文章の中でちょっと 1 点気になるところがあります。32 ページの 1 番下のところに、持続可能な水道事業の実現というところで、下から 2 行目に、可能な限りの低廉な水を提供するためにというところ、それを目指していこうという意味合いも含めて、毎回うたってはきているものの、今の現状から見て、変わらずここに置いていてもいいものかと、不安に思うのですが、その辺もまた検討していただければと思います。

事務局：

今、物価がかなり上がっております。水道管の値段も 9 月 1 日から 10%、20%と上がっている現状がございますが、社会的要因で上がってしまうことは、もう致し方ないかなと思っています。ただ、事業の運営、経営の仕方に関しては、できるだけコストを抑えた形で運営をしていきたいと思いますので、文言としては残しておきたいと考えています。

委員：

いろんな場所でこのビジョンを、議会に提出したり、市民にも公表したりされると思います。ないかもしれませんが、低廉な水という文言を取上げて説明を求められたりしないか、少し懸念しました。水道ビジョンの見直しにあたって、この場で話し合ったこのビジョンが今後基本となって、事業運営をしていくものでしょうから、今ここでこういうものを折り込んでいきたい、こういう水道事業をやっていきたいという具体的なことをもう少し、このビジョンに反映させても良いのでは。大事な策定資料になると思われますので、その辺りも踏まえて、考えていただければという希望を申しました。事務局のご意見もわかりました。

事務局：

水道ビジョンに関しては、今後の水道の運営の仕方とか、事務組合の考え方を示すものと捉えております。どうしても社会情勢で今電気代などが高騰しているのは承知しておりますので、その中で、できるだけ、利用者に負担がかからないようコストの見直しなど行いながら、運営していきたいと考えております。

委員：

確認ですが、市民にではなく、お客様に信頼される水道という表現です。この市民とされなかった理由です。というのは、事務組合も地方公共団体であり、住民の負託にこたえるのが公共団体の役割とするならば、市民に信頼される水道を次の世代へという表現でいいのではと思うが、それをあえてお客様とすると、買っていただく人に信頼されるというようなニュアンスが出る。この表現にされた理由がもしお分かりならば教えていただきたい。

会長：

私も、水道は商売と言いながらも、やっぱり公共ですから、市民というほうがいいかなと思いますが、皆さんどうですか。事務組合が、お客様とするのも分かるのですが、一般としたらやっぱり市民という感覚のほうが、私も合うのではと思いますが、コンサルの方、アドバイスされる方ですけど、いかがでしょうか。

コンサル：

コンサルタントの立場から申し上げますと、ここを市民にするかお客様にするかっていうのは、非常に難しいところがあるかなと思います。これは前回の水道ビジョンでこういう形の基本理念に決まっています。一般論ですが、基本理念はよほどのことがない限り変えないことが多いです。経営方針が変わったとか、例えば福岡県で一つの水道になったとか、そういった大幅に変わったようなことがない限り、ここは事務組合が存在している意義とか理由という部分です。で、基本は変更しないという考えで、今このままになっています。ただおっしゃるとおり市民という書き方でも良いと思います。それについては、理念が全く変わるわけではないので、ただエンドユーザーの方の表現方法が変わるだけですので。ですから、私の立場からすると、どちらでも大丈夫かなとは思いますが。

事務局：

水道というのは給水区域がございますので、宗像市、福津市全域に広がっているわけではございません。水道料金をいただいて事業運営をしている公営企業でございますので、市民になると宗像市であれば宗像市のどこでも、という感覚を持たれるのではないかと思います。給水区域とか、そのあたりの水道の縛りがございますので、お客様という文言が適正かどうかという点については考慮するところもあるかと思いますが、市民という全体に広げるのは難しいかなと考えます。

委員：

これはどちらかに統一して整理する話だと思いますが、ただ、意向調査は市民の意向調査となっています。給水区域があるので確かに全部にサービスしているかどうかという現実がありますけれども、やはり水道は基本的には住民の負託にこたえて営んでいる事業だろうと思うので、市民と書いても良いと私は思います。確かに前回の計画で、お客様と書いておいて今回変えるというのは、違和感等あると思いますが、新たにビジョンつくるときに、もう1回検討してもいいのではという感じはします。

事務局：

貴重なご意見いただきましたので、改めて5年後、新たに水道ビジョンを策定するときに、どういった表記に、市民にするのか、お客様にするのか、議論した上で、検討したいと思います。

会長：

私のほうからお尋ねよろしいでしょうか。12ページですが、今回、事務の方法を変えたら老朽管が12%に下がったということですが、水道は、前のページにありますように、宗像市から福岡県まで届く約1000キロの整備がなされているわけですね。数年前からあちこちの自治体で漏水があって、老朽化した水道の修繕が出来なくてこれから先は大事になりますということを、随分ワイドショーでも取上げていて問題になっていますが、事務組合は老朽管が12%ということを今回提示されています。5年経過した今回のビジョン見直しですから、今どれくらい進捗しているのか。例えば、初めはこれくらいあったけど、5年間で、老朽化がこれだけ改良しましたと。あと5年で、例えば何%にするとか、そういうことを明記したらより分かりやすいかなと思います。それはビジョンに書くことではないということもあるのかもしれませんが、宗像の水道や下水道は大丈夫だろうかと皆本当に心配しています。あちこちで水道工事があっていますので、安心はしながらも、数値的には分からないという点がありましたので、どうなっているのかということが1点です。それからもう一つ質問ですが、15ページの資本的収のところ、収入がマイナスになったので、貯金を出している。他に資固定資産の売却をしていますか、どこの売却でしょうか。その2点をお願いします。

事務局：

まず12ページのほうからお答えしたいと思います。事務組合の事業運営の考え方としては、施設整備計画というのを立てております。その中で現状1年当たり12キロほど、パーセントでいけば1.2%程度、改良事業を進めております。また水道管の質もよくなりましたので、40年経過して、老朽管だからすぐ壊れるということではありませんが、それでも昔の水道管は、やはり壊れやすいと考えるので、そこを重点的に、老朽管から更新を進めているところです。また毎年度どれくらいの事業費を使うかということは、施設整備計画のほうでお示ししたいと考えております。

会長：

進捗率などはここでは書かないということですね。そういうのがあると分かりやすいとは思いますが。あと、もう一つ、固定資産の売却についてお願いします。

事務局：

はい、15ページの資本的収支についてはお話しします。まず、ここの補填財源という形で大きく出ている部分ですが、ここにつきましては、経理のやり方の中で、施設設備に投資したお金については、その施設の耐用年数に応じて、毎年の費用として、減価償却費を計上しています。これは現金の支出ではなく、手元に現金が残りますので、こういったものを使って不足分の補填をしているというのが1点でございます。あと、もう1点固定資産売却代金につきましては、昨年

度、当組合が保有する有価証券が満期を迎えたことで、現金が戻ってきたという部分を収入に計上しています。

会長：

分かりました。全体を含めて、もう一度皆さんにお聞きしますが、ありますか。

委員：

話を蒸し返しますが、先ほどの市民かお客様かというところですけども、宗像市にも 100% 水道は整備されていないという点で、やっぱりお客様だと思います。市内でも、いろんな問題があって水道が引かれてないところがあるんですよね。だから私個人の意見としてはお客様のほうがいいのではないかと。普及率が 100% となったときに市民にさせていただいたらいいかなと思います。個人的な意見でございます。

会長：

それではここで、審議は終わりますがよろしいですか。

開催日程調整

・次回審議会の日程を下記のとおり決定。

第 3 回 11 月 22 日（火）14 時から

第 4 回 12 月 12 日（月）14 時から

会長：

これをもちまして、第 2 回水道事業運営審議会を閉会いたします。長時間ありがとうございました。